
日本図書館文化史研究会

ニューズレター

第 95 号 2006 年 1 月 17 日

日本図書館文化史研究会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalih/index.html>

〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1

明治大学司書・司書教諭課程

郵便振替口座 00170-5-164973

(事務局)

小黒浩司

電子メール

■■ 目 次 ■■

日本図書館文化史研究会 2005 年度第 3 回研究例会のご案内	2
研究例会発表募集のお知らせ	
日本図書館文化史研究会 2006 年度研究集会のご案内	5
日本図書館文化史研究会 2006 年度研究集会個人発表募集のお知らせ	
.....	5
創立 25 周年記念『図書館人物伝(仮称)』について	6
日本図書館文化史研究会 2005 年度第 2 回研究例会発表要旨	7
『ニューズレター』原稿募集のお知らせ	
2004 年度会計年度決算報告・2005 年度予算(案)の訂正について	
.....	9
運営委員会通信	11
事務局だより	12
会費納入のお願い	
会員動向	

日本図書館文化史研究会

2005 年度第 3 回研究例会案内

2005 年度第 3 回の研究例会を、下記のように開催します。是非ともご参加ください。

なお、研究例会・運営委員会終了後、会場近辺で懇親会の開催を予定しています。あわせてのご参加を期待します。

記

- 日 時 2 月 25 日 (土) 14 時～16 時
- 場 所 明治大学 アカデミーコモン 8 階 司書・司書課程室
※ アカデミーコモンの位置、交通等は 4 ページ掲載の地図
をご参照ください。
- 参加費 無料
- 申込方法 参加ご希望の方は、本研究会事務局まで、郵便、ファックス、
または電子メールでお申込ください。
- 申込締切 2 月 22 日 (必着) でお願います。

【発表 1】

- 発表者

井谷 泰彦 (明治大学大学院博士後期課程 桐朋学園男子部図書館)

- 発表題名

奄美の図書館長 島尾敏雄

- 発表要旨

「純文学の極北」と呼ばれる作家島尾敏雄には、20 年間にもわたる奄美大島名瀬市での図書館長 (鹿児島県立図書館奄美分館) としての、市井の職業人としての顔がある。図書館長の仕事をこなしながら、島尾は大作「死の棘」を著し、「出発は遂に訪れず」を書き、そして「ヤポネシア」という概念を創出した。そのユニークな作家活動と図書館長としての業績は、実は深い場所で結合していた。島尾敏雄の図書館長としての活動、島尾が在職した鹿児島県立図書館奄美分館の当時の様相を再現するなかから、そのユニークな図書館活動を可能にした諸条件について考えたい。

【発表2】

○ 発表者

三浦 太郎（東京大学大学院教育研究科）

○ 発表題名

バーネットと戦後占領期日本の図書館

○ 発表要旨

バーネットは昭和 21（1946）年に東京 CIE 図書館長に就任し、翌年から昭和 24（1949）年まで第 2 代図書館担当官を務めた。彼の活動については、学校図書館史などで言及があるものの、その全体像は明らかでない。本発表は、彼が戦後占領期日本において何をなしたかについて、CIE 文書や ALA 文書などの一次資料に基づき、考証しようとするものである。彼の責務は ALA の意図に沿っており、とりわけ、①国立国会図書館創設時に来日した図書館使節への援助、および、②IFEL などにおける図書館学教育の振興に力点が置かれていた。また、彼は『学校図書館の手引』の編集に関わって学校図書館運動を促進したり、図書館法制定に関与して自律的な図書館協議会を文言化しようとするなど、その活動は多岐にわたっていたと言える。しかし、CIE 教育課内部で図書館担当官の発言力は必ずしも大きくなかったことから、その活動は一定の制約を受けざるをえなかった。初代図書館担当官キーニーが独自の図書館再建案を提示したのとは対照的に、彼は主に ALA が日本の図書館発展にとって課題とした事柄を実務的に扱うことに専念したと評価できる。

研究例会発表募集のお知らせ

本研究会では、毎年度 3 回（6 月頃、12 月頃、3 月頃）に研究例会を実施しています。研究例会での発表を希望される方は、次の各項を明記して、別記の事務局までお申し込みください。

- 氏名（所属）
- 連絡先（住所、電話、メールアドレス等）
- 発表題目
- 発表要旨（200 字程度）
- 発表時間（通常質疑応答を含め 1 件 1 時間程度）
- 発表希望場所（例：関東、関西）

会場案内

『図書館文化史研究』第24号原稿募集のお知らせ

機関誌『図書館文化史研究』第24号の原稿を募集中です。

原稿の締切は2006年12月末日です。ふるってご投稿ください。

なお、この件に関するお問い合わせ、ならびに原稿の送付先は別記事務局までお願いします。

日本図書館文化史研究会
2006 年度研究集会のご案内

2006 年度日本図書館文化史研究会研究集会・総会を、おおむね下記のように開催することになりました。多くの方のご参加を期待します。

なお内容等の詳細については、次号以降の『ニューズレター』で、お知らせします。

記

- 日 程 2006 年 9 月 9 日（土）・10 日（日）
 - 第 1 日：シンポジウム「もり・きよし一生誕 100 年を記念して一（仮）」
懇親会
 - 第 2 日：個人発表
会員総会
- 場 所 甲南大学
<http://www.konan-u.ac.jp/>
- 参加費 2,000 円程度を予定

日本図書館文化史研究会
2006 年度研究集会個人発表募集のお知らせ

上記研究集会・第 2 日（9 月 10 日）での個人発表を希望される方は、次の各項を明記して、別記事務局までお申し込みください。

発表時間は質疑応答を含めて 1 件 1 時間程度を予定しています。

- 氏名（所属）
- 連絡先（住所、電話、メールアドレス等）
- 発表題目
- 発表要旨（200 字程度）

創立 25 周年記念『図書館人物伝（仮称）』について

創立 25 周年記念『図書館人物伝（仮称）』につきましては、大変反響が大き
く、その後も応募が相次いでいます。以下は 2005 年 12 月末現在の応募状況で
す（執筆予定者の五十音順、敬称略）。

1. 伊香左和子（静岡文化芸術大学） セーチェーニ・フェレンツ
2. 石井 敦 田所糧助
3. 石川 敬史（工学院大学図書館） 叶沢清介
4. 石山 洋 森 清
5. 井谷 泰彦（桐朋中学高等学校図書館） 島尾敏雄・伊波普猷・真境
名安興
6. 伊藤 昭治 志智嘉九郎
7. 井上 靖代（獨協大学）（Mabel Williams）
8. 大沼 宜規（国立国会図書館） 岡 千仞？
9. 小川 徹 佐野友三郎
10. 奥泉 和久（横浜女子短期大学） 森 博
11. 小黒 浩司（作新学院大学） 大西伍一
12. 垣口弥生子（大阪府立中之島図書館） 今井貫一
13. 河井 弘志 ウォルター・ホフマン（Walter Hofmann）
14. 坂内 夏子（早稲田大学） 川本宇之介・乗杉嘉寿
15. 阪田 蓉子（明治大学） 本間一夫
16. 参納 哲郎（富山短期大学） 村上清造
17. 志保田 務（桃山学院大学） 間宮不二雄
18. 鈴木 宏宗（国立国会図書館） 松本喜一
19. 高梨 章（関東学院大学図書館） 湯浅吉郎
20. 竹之内 禎（東京大学） 中田邦造
21. 中林 隆明（東洋英和女学院大学） NDL の関係者
22. 中山 愛理（筑波大学大学院生） メアリー・レミスト・ティッコム
23. 原 淳之（筑波大学） トーマス・グリーンウッド(Thomas Greenwood)
24. 馬場 俊明（甲南大学） 中井正一
25. 深井 耀子（椛山女学園大学） リリアン・スミス（トロント）
26. 藤野 寛之（愛知淑徳大学大学院） ジョン・ショウ・ビルングス（John
Shaw Billings）
27. 松崎 博子（筑波大学大学院生） シェラ
28. 三浦 太郎（東京大学） キーニー
29. 宮原志津子（東京大学大学院生） ヘディッグ・アヌアール（Hedwig
Anuar）
30. 山口源治郎（東京学芸大学） 今澤慈海
31. 山本 順一（筑波大学） ジョン・コットン・デイナ(John Cotton Dana)
32. 若松 昭子（聖学院大学） ピアス・バトラー

日本図書館文化史研究会

2005 年度第 2 回研究例会報告

11 月 26 日、2004 年度第 2 回研究例会が、桃山学院大学昭和町学舎エクステンション・センター分室を会場に開催されました。参加者は 15 名（うち非会員 4 名）でした。

【発表 1】

○ 発表者

志保田 務（桃山学院大学）

○ 発表題名

二つの主記入論争：青年図書館員連盟と後継者を焦点に

○ 発表要旨

20 世紀の日本の目録規則論議の歴史の上には、二つの大きな論争があった。

第一は、日本伝統の書名主記入方式に立つ日本図書館協会目録委員会「和漢書目録規則」に対抗して、西洋流の著者主記入の導入を図ろうと青年図書館員連盟が仕掛けた論争であり、1930 年代初めに展開された。

第二は、アメリカの主導ですでに流れが逆転し日本の目録基準の正統となっていた西洋流の著者主記入方式に対して出された、非基本記入方式論およびこれをめぐる論争である。1950 年代半ばから 1970 年代にかけてのものであった。

本稿の主旨は次の 2 点である。

1 事実：として、この二つの主記入論争の挑戦的な主役が、青年図書館員連盟（会員）及びその末裔（日本図書館研究会）であることを把握する。

2 評価：として、目録世界を例として、図書館の技術政策の議論を公開の場で行い、大衆的に決することの必要性を把握する。

1 事実は、下記をポイントとする。

ア) 論争の事実の把握

イ) 第一期の主記入論争で、青年図書館員連盟の主張が正規の位置を獲得後、第二期の論争で、その末裔である日本図書館研究会の主要会員が、これを批判し、国内的に正規目録規則としての位置を奪い、その後を襲ったこと、その因縁の確認。

2 評価は、下記のとおりとする。

ア) 青年図書館員連盟と日本図書館研究会（中心会員）の、標準目録規則に対する立脚点を探る。それを地理的拠点と、世代抗争の要素にまとめ論評する。

イ) 青年図書館員連盟、日本図書館研究会（中心会員）によるわが国標準目録規則に対する強烈な批判のなかに見る標準性志向と、標準外規定の内在。

以上のことは事象としては既述している（志保田務『日本における図書館目録規則の標準化と目録理論の発展に関する研究』学芸図書 2005・5 238p.）。

本稿は下記の点に新たな拠点を求めたものである。

①第一期、第二期の論争をともに「主記入論争」として束ねる。これは論述上の挑戦であり、論述上のモディフィケーションである。伝統的、狭義には第一の論争（のみ）が「主記入論争」にあたるものであることは熟知のうえである。

②青年図書館員連盟及びその末裔、日本図書館研究会（中心メンバー）による標準

目録規則批判の立場を、権力批判、地理的關係、世代抗争的要素から探った。結果、日本図書館研究会が、元祖の青年図書館員連盟に敵対したわけでないことを論述した。

【発表2】

○ 発表者

藤野 寛之（愛知淑徳大学大学院）

○ 発表題名

歴史研究の場としてのアメリカ大統領図書館

○ 発表要旨

1955年に制定された法律、およびその後の議会での取り組みをもとに、アメリカ大統領図書館が存在する。その法律の内容、設立背景、教育施設としての役割、各図書館の概要などを紹介した後に、次のように結論付けた。

19世紀後半よりアメリカ図書館界は、景気にも支えられ、非常に大きな力を付けた。そして第二次世界大戦までに、アスター、カーネギー、フォードなどの資産家や慈善事業家の支援の下、ニューヨーク公共図書館、ハンティントン図書館など、各地に『図書館＝見せ場』を作った。そのため大統領図書館はその延長線上にあるのではないかと考え、①政府が法律により図書館を容認した点、②大統領出身地がその『場』として歓迎した点、③『教育の場』として位置付けようとした点、④ルーズベルトの図書館観をその根拠として挙げた。

『ニューズレター』原稿募集のお知らせ

ニューズレターの原稿を常時受け付けています。

次号（96号）掲載を希望される場合、2006年4月末日までに別記事務局まで原稿をご送付ください。

今後ニューズレターで、図書館文化史研究に関わる文献・情報を速報していきたいと思えます。会員・非会員の問わず、関連業績を事務局までご連絡ください。皆様のご協力をお願いします。

2004 年度会計年度決算報告・2005 年度予算（案）の訂正について

『ニューズレター』第 93 号、『2005 年度研究集会・総会予稿集』に掲載しました、2004 年度決算報告と 2005 年度予算（案）に誤記がありました。深くお詫びします。

訂正版の 2004 年度決算報告と 2005 年度予算（案）を掲載します。訂正箇所を で示しました。

日本図書館文化史研究会2005年度予算(案)

収入		1,137,991
	金額	備考
郵便局貯金利子	15	
会費	439,500	
2005年度分	450,000	150名×3,000円
同振込手数料	-10,500	150名×70円
研究例会・集会参加費	85,000	
第2回例会	5,000	10名*500円
第3回例会	5,000	10名*500円
研究集会	75,000	50名*1,500円
雑収入	1,000	予稿集売り上げ
2004年度繰越金	612,476	
支出		565,975
	金額	備考
『図書館文化史研究』22号発行費	300,000	
『ニューズレター』発行費	130,975	
92号	31,975	(発行済)
93号	33,000	
94号	33,000	
95号	33,000	
研究例会・集会運営費	85,000	
第1回例会	0	(実施済)
第2回例会	5,000	
第3回例会	5,000	
2005年度研究集会	75,000	
事務局経費	50,000	
通信費	10,000	
事務用品購入	25,000	長3封筒、会費振込用紙印刷費15,855円を含む
運営委員会開催費	10,000	
交通費	5,000	
2006年度への繰越金	572,016	
特別会計		100,000

日本図書館文化史研究会
2004会計年度決算報告(2004.4-2005.3)

収入 **1,037,647**

	金額	備考
郵便局貯金利子 会費	475,080	
03年度分	18,000	6名
04年度分	438,000	146名 (ほか前年度納入済4名、名誉会員3名、未納7名)
04年度分	2,500	1名(前年度500円過納分を清算)
05年度分	24,000	8名(うち2名は05年度新入会)
06年度分	3,000	1名
同振込手数料	-10,420	70円136件、60円15件 (ほか自己負担3件)
研究集会剰余金	33,120	詳細別紙
2003年度繰越金	529,447	

支出 **425,171**

	金額	備考
『図書館文化史研究』21号制作・発行費	281,875	
日外支払い	253,170	
寄贈分送料	1,510	
奥泉氏立替分	9,000	
抜き刷り制作費	15,750	
振込手数料	105	
送料	2,340	
『ニューズレター』88号制作・発行費	36,405	
印刷費	21,000	
振り込み手数料	105	
送料	14,830	161通*90円、140円*1通、200円*1通
版下送料	470	
『ニューズレター』89号制作・発行費	33,680	
印刷費	18,900	
送料	14,780	162通*90円、1通*200円
『ニューズレター』90号製作・発行費	31,775	
印刷費	16,800	
送料	14,870	159通*90円、4通*140円
振り込み手数料	105	
『ニューズレター』91号製作・発行費	26,408	
印刷費	13,650	
送料	12,348	164通*90円、2通*80円 (合計14,920円のうち2,572円郵券)
版下送料	410	
第1回研究集会費用	1,388	
事務局経費	13,640	
通信費	9,020	詳細別紙
事務用品購入	0	
運営委員会等開催費	0	
交通費	4,620	詳細別紙

2005年度への繰越金 **612,476**

監査の結果、帳簿の記入、事務処理が適正に行われていたことを報告します。

監事 山本 順一 印
監事 山口源治郎 印

運営委員会通信

■ ■ 次回運営委員会について ■ ■

次回運営委員会を、下記のように開催します。本研究会の運営に興味・関心のある方は、是非ともご参加ください。

当日ご都合の悪い方は、別記事務局まで郵便、ファックス、または電子メールで、ご意見、ご希望等をお寄せいただければ、運営委員会で検討いたします。

記

- 日 時 2月25日(土) 16時～17時30分
- 場 所 明治大学 アカデミーコモン8階 司書・司書課程室
- 内 容
 1. 2006年度事業計画・予算について
 2. 2006年度研究集会・総会について
 3. 2006年度第1回研究例会について
 4. 25周年記念事業『図書館人物伝(仮称)』について
 5. 2005年度決算について
 6. 2005年度研究集会決算について
 7. 25周年記念事業について
 8. 『図書館文化史研究』第23号について
 9. 日本図書館文化史研究会規約の改正について

ほか

■ ■ 前回運営委員会の報告 ■ ■

実施日：2005年11月26日

場所：桃山学院大学昭和町学舎エクステンション・センター分室

以下のような事項について、協議しました。

1. 2004年度決算・2005年度予算の訂正について
2. 2006年度研究集会について
3. 第3回研究例会について
4. 25周年記念事業『図書館人物伝(仮称)』について
5. 日本図書館文化史研究会規約の改正について
6. 新入会員
7. 次回運営委員会(編集委員会)について

事務局だより

■■ 会費納入のお願い ■■

2005年度会費をまだ納入されていない方には、封筒に「会費振替用紙在中」の朱印を捺し、振替用紙と会費納入のお願いの文書を同封しました。至急ご送金ください。年会費は3,000円です。

■■ 会員動向 ■■

新入会

勤務先・住所変更

退会